

大学入学共通テストで必要な力とは？



2020年度から、現行の「センター試験」が「大学入学共通テスト」に変わります。公開されたモデル問題を解くと、**実社会**とかかわりのある題材になっていて、社会に出てから役立つ力も図る意図が見られるのです。つまり、**今までの古い勉強方法**では、**解けない問題がある**のです。

今までは、覚えた量の多い高校生が良い大学に合格しました。彼らは、受身的に言われたことをやれば、点数が取れました。しかし、これからは違います。日常的に、主体性を持って論理的に考え、表現できる高校生が、良い大学に合格するようになるのです。

「大学入学共通テスト」は、国語と数学で記述式問題が出題され、試験時間は、国語が20分間、数学は10分間、それぞれ延長されます。英語は、2023年度までは、「大学入学共通テスト」に加えて、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を評価している民間の資格・検定試験も評価に入ります。2024年度からは、民間の資格・検定試験に全面移行する方向で進められています。



思考力を問う問題は、すでに開始されていて、2017年度に実施された東京大学の英語では、「あなたがいま試験を受けているキャンパスに関して、気づいたことを一つ選び、それについて60～80語の英語で説明しなさい」という**思考力**や**表現力**が問われた問題が盛り込まれました。

新しい大学入試問題では、**私生活の中で、主体性を持って行動し、変化に気づき、自分の考えを持っているのか**問われそうです。